審判員県外派遣報告書

1	講習会名（大会	第32回都道府県対抗ジュニアバスケットボール大会		
2	報告者	藤田　公介	所属連盟	U18
3	期　　日	2019年3月27日（水）～30日（土）		
4	講　　師	阿部聖、長谷川裕、平出剛、御手洗亮、蒲健一 和嶋陽一、山内正隆、福岡敏徳、東條輝正、漆間大吾		
5	参加者	各都道府県より派遣された審判員（原則A級以上）		

6	担当したGame				
No	期日	対戦カード	R/U	相手審判	ゲ　ー　ム　雑　感
1	3月27日	モデルゲーム	U1	CC：若林謙作(栃木A) U1：吉田一貴(神奈川)	主任：山内正隆(本部)、和嶋陽一(本部) 高校生と大学生のモデルゲームで、高校生の勝利。
2	3月28日	女子　予選リーグ 富山vs大分	CC	U：一杉あきの(東京)	主任：市橋(東京) 守りからのブレイクで大分が得点を重ね、勝利。
3	3月28日	男子　予選リーグ 東京Avs長崎	CC	U：蔵田智（奈良）	主任：山岸大輔(埼玉A) 決勝トーナメントをかけた1試合で、東京が攻守ともに勝り、東京の勝利。
4	3月29日	女子　決勝トーナメント 沖縄vs青森	U1	CC：高平吉康(宮城A) U2：野田明男(福岡)	主任：加藤加織(滋賀A) 両チームともシュートが入らないが、沖縄のファウルがかさみ、青森の勝利。
5	3月30日	男子　準決勝 京都vs岡山	U1	CC：山岸大輔(埼玉A) U2：二宮光司(愛媛)	主任：福岡敏徳(本部) 両チームとも能力が高く、1対1、外角シュートで勝る京都の勝利。

7　審判会議・ミーティング内容、審判技術・判定基準等に関すること、全体の感想および提言等

●審判研修会●
宇田川委員長より、インテグリティの説明があり、その後、漆間氏の研修会があった。
インテグリティについては、テクニカルファウルに対して後ろめたさや特別感を持つことなく、他のパーソナルファウルと同様に簡単に判定する必要があるとご指導いただいた。
漆間氏の研修会では、審判員としての考え方やメンタリティ、3POメカニックスの2本立てで、昔の経験に固執することなく、新しい情報を取り入れ、日々進化していく必要があるとお話しいただいた。

●実技後の主任からの反省●
3月27日：モデルゲーム
・積極的に試合に関わっており、CCメンタリティもあって良い。

3月28日：予選リーグ男女
・2POでの視野の分担(エリアとアングル)の約束事をもっと細かく決めることで、二人の協力ができる。特にトレイルからミッドライン側へのドライブで、アングルがトレイルからリードにうつる場面の判定。3POではセンターがいるが、2POの時はどうするのか。試合では、私がトレイルからファウルを吹いたが、アングルの状態やレベルの高さなどをもっと細かく話す必要があると思った。

・ベンチ管理。監督の声などは観客や映像には残らないが、仕草や振る舞いは目に映るし、映像にも残る。Respect for the gameの観点で、オーバージェスチャーに対して、簡単にTFを吹く必要があった。ガイドライン通りに、他のファウルと同様にシンプルに判定する必要があった。

・相手エリアで起こったUF(C4)を吹いたケースで、私はニュートレイルになる状態でC4の基準を満たしていると確認できたが、吹いた時にクルーと集まって、ディフェンスの状況、ボールコントロールの確認をした方がベターであった。

3月29日：女子　決勝トーナメント1回戦
・プライマリエリア、アングルの意識を常に持つ。誰が一番手で取り上げるべきなのか。トレイル・センター間のチェックイン・アウトのタイミングをアイコンタクトをとり、スムーズに行うこと。特にチェックアウトの意識を強くを持たなければ、ボールウォッチャーになり、オフボールの判定ができなくなる。

・イリーガルvsマージナルの見極め。OFのRSBQを確認し、レイトコールを心がけることとで瞬間的な笛を防ぐことができる。

3月30日：男子　準決勝
・ベンチからのアピールに対しての対応の仕方で、審判の判定は間違っていないのに、対応の仕方をうやむやにしていると、観客からはベンチが正しくて、審判が間違っていると見られてしまうので、毅然とした態度での対応も必要である。

・3vs2のつま先の確認をもっと確実に行う。FULのために、レシーバーがボールを貰う前にオープンアングルを作ること。

●まとめ●
今大会に向けて、【Strong】【Decisive】【Approachable】の3つの概念をどのようにコートで表現すべきかを自分なりに考え、具体的な行動に落とし込んだ。例えば、CCメンタリティ、クルーワーク、プレゼン、レフェリーディフェンス、マージナル、プライマリなどである。そしてそれらについて、評価を頂いたものもあれば、反省を頂いたものもある。自分自身の課題をPDCAサイクルに落とし込んで取り組むことで、次何をする必要があるのかが明確に見えた4日間であった。
今大会に派遣して頂きました審判委員会の皆様、応援して下さった県内の先輩・仲間たち、本当にありがとうございました。
今大会で得た知識と経験を自身の次のステップだけでなく、県内の審判技術の向上のためにも活かしていきたいと思います。
今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。